

財政に対する市場の信認確保に関する検討会 論点整理 ～持続的な経済社会を実現するための財政健全化に向けて～ 〈5原則&5アクション〉

未来に向けて国民が安心して生活できる社会保障の整備と新たな経済成長への投資を行うために、財政の健全化は不可欠の前提である。過去を反省し、市場の信認と国民の理解を得た財政健全化を実現するため、以下に掲げる5原則の下、5つのアクションを進めていくことが必要である。

基本5原則

- 原則1. 経済成長と財政健全化の両立** 経済成長と財政健全化を両立していくことが重要。財政健全化計画と同時に「持続可能な経済の成長シナリオ」を示し実現に向けたロードマップを提示することが重要。
- 原則2. 歳出構造の抜本的な見直し** 常に歳出構造を見直し、徹底的に無駄な支出を排除し、効率性・有効性の低い事業を抑制する仕組みを、予算編成の過程に組み込んでいく。歳出の構造を抜本的に見直し、経済成長につなげることが重要。
- 原則3. 慎重な経済見通しに基づく中長期的な財政健全化計画の策定** 「際限ない財政赤字拡大・公的債務残高の累増に対する不安」が最大のリスクであり、慎重な経済見通しを前提にした政府の中長期的な財政健全化に対するコミットメントが必要。
- 原則4. 財政健全化に対する国民の理解** 社会保障基盤を整備していくための安定した財源を確保するため、財政健全化に対する国民の理解を求めていくことが必要。
- 原則5. 市場との対話を重視した国債管理** 市場との対話を通じて財政健全化に向けた政府のコミットメントを示し、市場の予見可能性と透明性を高めていくことが重要。

5つのアクション

- アクション1. 歳出の質的变化と国債発行上限の設定** 平成22年度予算編成において、財政支出の質的变化を実現するとともに、国債発行額の上限を、「予算編成の基本方針」において定める。
- アクション2. 持続的な成長シナリオの策定** できる限り財政に依存せず、知恵を出し、ルール等を変えることによって新しい需要と新規雇用を生み出し、財政支出の中身を変え、投資効果の高い中長期の経済成長につながるものに投資し最大限の効果を生む施策を考え成長シナリオを策定する。
- アクション3. 「財政運営戦略」の策定** 平成23年度予算以降、慎重な経済見通しに基づく中長期的な財政規律のあり方を含めた「財政運営戦略」を策定する。
- アクション4. 「中期財政フレーム」の設定** 平成23～25年度の3年間の歳入見込み及び、各分野の歳出の骨格と歳出削減を含む、「中期財政フレーム」を策定する。
- アクション5. 市場との対話を重視した財政運営** 市場との対話を継続的に実施し、今後の財政健全化に向けた取り組みや、更なる無駄の削減に向けた取り組み等のメッセージを市場に発信していく。